

## 事例 1 3 様々な側面から考える場面を設定し、課題解決に向けて主体的に学びを深める事例

○学年 第2学年

○主な内容 内容「B 衣食住の生活」(6)住居の機能と安全な住まい方 ア(ア)(イ)イ

○事例のポイント

- ① 「安全・安心で快適な住まい」について様々な側面から考え、学びを深めることができる。
- ② 模擬家族を用いて、家族の生活と住空間の関わりについて、共通の話題をもって考えることで、課題を解決する力を育成する。

### ICTを活用した主な学習場面

- ・ 日常生活に結びつけて考えを深める場面
- ・ 生徒同士で考えを共有し、学びを深める場面

### ICT活用の利点

- ① ICT端末を用いて、実体験や実物の動画を視聴することで、生徒一人一人に応じた閲覧ができると共に、具体的に迫った主体的な学びが実現できる。
- ② ICT端末の共同編集機能を活用した意見の共有により、協働的な学びが深められる。

## 1 題材名 「安全・安心で快適な住まい」

内容B (6)ア(ア)(イ)イ 第2学年

## 2 題材について

- (1) 生徒について 省略
- (2) 題材について

本題材は、「B衣食住の生活」の(6)「住居の機能と安全な住まい方」のA(ア)(イ)及びイに関する題材である。ここでは、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。住生活においては、少子高齢化の進展や近年多発している自然災害、コロナ禍以降の生活様式の変化など、課題が多種多様化している。そのため、題材設定に当たっては、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方を考え工夫する学習内容を重点的に扱う。「安全・安心で快適な住まい」について様々な側面から考えさせることで、生徒自身が、住生活の中から問題を見だし、課題をもって住居の機能や安全な空間の整え方を考えながら、生活を工夫し創造し、実践しようとする態度を育成することができると思う。

## (3) 指導について

指導に当たっては、小学校家庭科で学習した「B衣食住の生活」(6)「快適な住まい方」に関する基礎的・基本的な知識及び技能を基盤として、家族が「安全・安心で快適な住まい」にするための住空間の整え方を多面的、総合的に学習できるように配慮する。題材の導入に当たり、「安全・安心で快適な住まい」にするために、住空間をどのように整えるとよいか問いかけることで、生徒自身の生活の中から問題を見だし、自ら課題をもって、学習活動に取り組めるようにする。住まいは、厳しい自然環境から身を守る機能的な役割と、安心・安全で心身の安らぎを得られる心理的な役割があるということを踏まえ、心も体も「安全・安心で快適な住まい」について考え、問題を見出し、課題を設定する。課題の解決に向けた学習活動では、家族、気候風土、健康、幼児、高齢者、地域などの様々な側面から題材を通して考えさせ、学びを深める。その際、「A家族・家庭生活」の(1)「自分の成長と家族・家庭生活」で学習した家族・家庭の基本的な機能や(2)「幼児の生活と家族」、(3)「家族・家庭

や地域との関わり」と関連させて指導する。

I C T端末を活用し、身近な人の話を聞く活動、実体験に近い動画の視聴など学習活動を工夫することで、問題をより身近で自分事としてとらえさせる。題材の後半の、住まいの整え方についての学習では、学習した内容を自分の実際の生活で生かす活動を意図的に設定し、主体的な学びの充実を図る。また、協働的な学びの場面では、模擬家族を用いて話し合い活動をおこなう。共通の話題が生まれ、生徒にとって必要感のある話し合い活動を設定することで、主体的に課題を解決する力を育成する。住生活の学習については、生徒の住まいに係るプライバシーには十分配慮して指導に当たる。

### 3 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。 〈知識及び技能〉
- (2) 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。</li> <li>・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。</li> </ul>	家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

### 5 題材の指導と評価の計画（8時間扱い）

編 P125 指導計画作成の  
留意事項(8)

〔1〕 住まいの役割	1 時間
〔2〕 生活に必要な住空間	本時 1 / 1 1 時間
〔3〕 自然とともにある住まい	1 時間
〔4〕 安全な住まい	3 時間
〔5〕 災害への備え	1 時間
〔6〕 安全・安心な住まいの空間の整え方	1 時間

小題材	時間	○ねらい ・ 学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
住まいの役割	1	<p>○家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見だし、課題を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族にとっての住まいはどのようなものか振り返り、住まいの役割を考える。</li> <li>・「安全・安心で快適な住まい」について課題を設定する。</li> </ul>	<p>編 P125 指導計画作成の留意事項(2)</p>	<p>①家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見だして課題を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	<p>①住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
生活に必要な住空間	2 本時	<p>○家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の生活と住空間について考える。</li> <li>・鳥瞰図を使って、模擬家族の生活と住空間について考えたことを、グループで共有し、話し合う。</li> <li>・住空間の果たす役割について考える。</li> </ul>	<p>①家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul> <p>事例のポイント①②</p> <p>ICT活用の利点②</p>		
自然とともにある住まい	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和式と洋式の住まい方の違いを知る。</li> <li>・気候風土や地域の特性が住居や住まい方にどのように反映しているか考える。</li> <li>・日本各地の伝統的な住まいの様々な知恵を調べる。</li> <li>・日本の住まいや住まい方の特徴を知る。</li> </ul>	<p>事例のポイント①</p> <p>ICT活用の利点①</p>		
安全な住まい	4 ・ 5 ・ 6	<p>○家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解するとともに、家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内環境の調節の方法を知る。</li> <li>・幼児や高齢者と一緒に住む人のインタビュー動画を視聴する。</li> <li>・幼児や高齢者の疑似体験を通して、家庭内事故の種類とその原因を知り、家族の年齢構成に合わせた安全対策を考え、グループで共有する。</li> </ul>	<p>②家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・ペーパーテスト</li> </ul> <p>ICT活用の利点①</p> <p>事例のポイント①</p>	<p>①家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul>	

災害への備え	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の自然災害や被害について知る。</li> <li>・災害動画を視聴し、住まいの安全対策について考える。</li> <li>・自分の住んでいる地区の防災情報を調べ、地域の防災対策や、自分の家庭での備えを考える。</li> </ul>	<p>ICT活用の利点①</p> <p>事例のポイント①</p>		
安全・安心な住まいの空間の整え方	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の安全を考えた住空間の整え方について、実践を評価したり、改善したりすることができる。</li> <li>・鳥瞰図を使って、模擬家族が安全に安心して生活できる住空間の工夫について考える。グループで共有し、話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<p>事例のポイント②</p> <p>ICT活用の利点②</p>	<p>③家族の安全を考えた住空間の整え方について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul> <p>④家族の安全を考えた住空間の整え方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul>	<p>②住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul> <p>③よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul>

## 6 本時の学習指導（本時2／8時）

- (1) 目標 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。 〈知識及び技能〉
- (2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・）評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
10	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で設定した、住生活の学習における課題を確認する。</li> <li>・小学校で学習した、雨や風、暑さ・寒さなどの過酷な自然から人々を守る生活の器としての働きについて確認する。</li> <li>・自分の生活行為と住空間について整理をし、住居について関心を持たせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       寝る、勉強する→自分の部屋      お風呂に入る→浴室        スマホを見る→自分の部屋      リビング     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のプライバシーには十分配慮する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">事例のポイント①</p>
20	2 家族の生活と住空間について考える。	<p>学習課題 住居は家族にとって、どのような場所か考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭によって住まいの空間は様々であることから、本時は、模擬家族を用いて考えることを伝える。</li> </ul> <p>事例のポイント②</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥瞰図を見て、模擬家族の住空間の使い方を考える。</li> <li>・〇〇家が引っ越しをすることになり、だれがどの部屋を使うのか考える家族会議を想定して考えさせる。(個人)</li> <li>・I C T端末で配布したワークシートを使って考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【模擬家族】(6人家族)</b></p> <p>父…「リモートワークをしているので集中できる書斎が欲しいなあ。」</p> <p>母…「家族団らんの時間を大事にしたいわ。」</p> <p>弟(小学生)…「中学生になったら自分の勉強部屋が欲しい。」</p> <p>祖父…「山登り道具をキレイにしまえる空間が欲しいなあ。」</p> <p>祖母…「最近、転んで足を骨折してしまったの。家族のみんなに迷惑かけたくないけど、家族みんなの時間は欲しいわ。」</p> <p>Aさん(中学生2年生女子)</p> </div>		
10	<p>3 グループで話し合い、重視したことを発表する。</p> <p style="text-align: center;"><b>I C T活用の利点②</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C T端末で配布したグループごとのワークシートに、誰がどの部屋を使うのか、重視したことについて、各自の考えを書いた付箋を会議記録スペースに貼り、グループで考えさせる。(グループ活動)</li> <li>・I C T端末を使い、各グループの作成したワークシートをクラス全体で共有し、発表する。(全体活動)</li> <li>・グループやクラスの意見を共有する中で、家族の願いや思いを尊重し、空間の使い方を工夫することが大切で、家族がどのような生活を重視するかによって住まいの空間の使い方が異なることに気づかせる。</li> </ul>		
5	<p>4 住居の役割(機能)について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住空間には何が求められるか、住空間ごとにワークシートに整理させる。</li> <li>・住空間は、家族にとってどのような場所か考えさせる。その際、住空間は家族にとってどのような役割を果たしているかを考えさせることで、住居の基本的な機能について理解させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。<b>【知識・技能】(ワークシート)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <p>おおむね満足できる状況(B)</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居は、家族が安心して健康に生活するための場所であることが、具体的な生活行為や住空間を挙げて説明している。</li> <li>→住空間での生活行為を具体的に挙げ、住空間が家族の生活を支えていることに気づかせながら、住居の役割を考えさせる。</li> </ul> </td> </tr> </table> </div>	<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居は、家族が安心して健康に生活するための場所であることが、具体的な生活行為や住空間を挙げて説明している。</li> <li>→住空間での生活行為を具体的に挙げ、住空間が家族の生活を支えていることに気づかせながら、住居の役割を考えさせる。</li> </ul>
<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居は、家族が安心して健康に生活するための場所であることが、具体的な生活行為や住空間を挙げて説明している。</li> <li>→住空間での生活行為を具体的に挙げ、住空間が家族の生活を支えていることに気づかせながら、住居の役割を考えさせる。</li> </ul>			
5	<p>5 住居の基本的な機能についてまとめる。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の生活において住空間は様々な役割を果たしており、住居は家族の安定した居場所である。</li> </ul> <p>本時の課題について再確認し学習を振り返る。</p>		

## 7 学習評価の具体例

《ワークシート》

(第2 / 8時 (本時))

住まいに必要な住空間	住生活 No.2
2年 組 番	
本時の課題：住居は家族にとって、どのような場所か考えよう。	
<b>住空間と生活行為</b>	
<b>共同生活の空間</b>	<b>個人生活の空間</b>
家事作業の空間 調理 洗濯 アイロンかけ 子育て 介護	生理・衛生の空間 入浴 歯磨き 手洗い 排せつ
家庭生活の空間 食事 団らん 遊び 接客	睡眠 学習 休養 趣味 テレワーク
移動と収納の空間	
住空間には何が求められますか	
家事作業の空間	安全に食事の準備ができる 衣服を衛生的に管理する 効率的に家事ができる
生理・衛生の空間	健康を維持できる 衛生的に使える 清潔なトイレやお風呂
家庭生活の空間	家族と一緒に楽しめる 家族のコミュニケーションが円れる 家族が支え合える
個人生活の空間	一人になって落ち着ける ゆっくり休養できる プライバシーを守られる
家族が生活する住まいには、どのような役割を果たす空間が必要ですか 家族が支え合って楽しく生活できる空間や、家族が元気に過ごせるように食事ができ、食事の準備をする空間、お風呂やトイレなど、清潔に過ごせるような空間と、一人一人のプライバシーが守られていて、ゆっくりと休養したり、寝たりすることができる個人の空間が必要だと思う。	

### 〈評価例1〉【知識・技能①】

(家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。)

※「概ね満足できる」状況 (B) と判断した生徒の具体的な例

家族が生活する住まいには、どのような役割を果たす空間が必要ですか  
**家族と一緒に支え合って楽しく生活できる空間や、家族が元気に過ごせるよう、食事を作ったり、食べたりする空間、お風呂やトイレなど、気持ちよく過ごすための空間が必要だ**と思う。

住空間が、家族が安心して生活するために大切な居場所であることが、具体的な役割を挙げて説明ができており、住居の基本的な機能について理解している。  
そのため、「概ね満足できる」状況 (B) と判断した。

### 〈評価例2〉【知識・技能①】

(家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。)

※「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の具体的な例

家族が生活する住まいには、どのような役割を果たす空間が必要ですか

**家族が支え合って楽しく生活できる空間や、家族が元気に過ごせるように食事ができ、食事の準備をする空間、お風呂やトイレなど、清潔に過ごせるような空間と、一人一人のプライバシーが守られていて、ゆっくりと休養したり、寝たりすることができる個人の空間が必要だ**と思う。

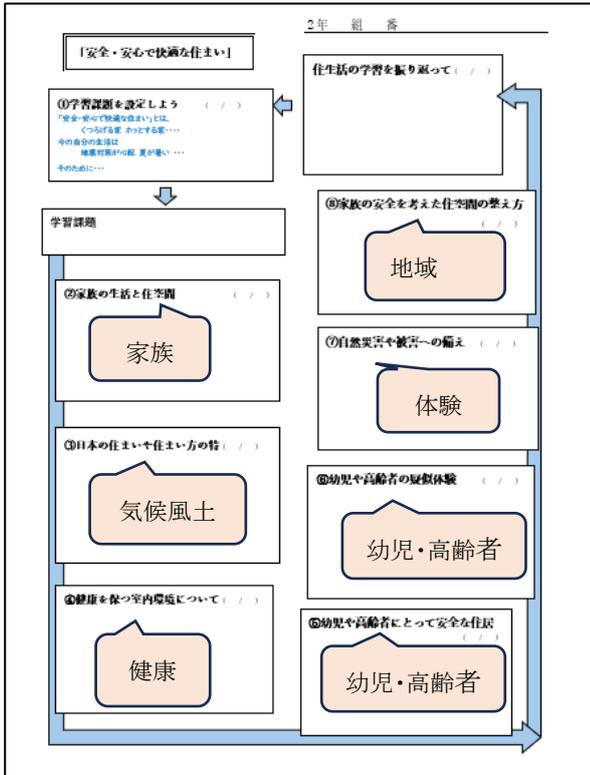
住空間が、家族が安心して生活するために大切な居場所であることが、共同生活の空間、個人生活の空間の両面から、具体的な役割を挙げて説明ができており、住居の基本的な機能について理解している。

そのため、「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

## 8 指導の実際

### 事例のポイント①（第2～7／8時）

「安全・安心で快適な住まい」について様々な側面から考え、学びを深めることができる。  
 ≪振り返りシート≫



「安全・安心で快適な住まい」について、様々な側面から考える学習を重ねることで、題材の最初に設定した課題を解決する学びを深めることができる。

「安全・安心で快適な住まい」

- ・ 家族の生活から
- ・ 日本の気候風土から
- ・ 健康を保つ視点から
- ・ 幼児や高齢者から
- ・ 幼児、高齢者体験から
- ・ 自然災害対策から

### 事例のポイント②（第2・8／8時）

模擬家族を用いて、家族の生活と住空間の関わりについて、共通の話題をもって考えることで、必要感のある共有活動が生まれ、主体的に課題を解決する力を育成することができる。

### ICT活用の利点①（第3・5・7／8時）

ICT端末を用いて、実体験や実物の動画を視聴することで、生徒一人一人に応じた閲覧ができると共に、具体的に迫った主体的な学びが実現できる。

- 3時 NHK for School「沖縄の家の工夫」の動画を視聴し、気候風土や地域の特性が住居や住まい方にどのように反映させているのか考える。
- 5時 幼児や高齢者と一緒に住む人のインタビュー動画を視聴し、家族の安全を考えた住空間の整え方について考える。
- 7時 東京消防庁防災教育VR「B-VR（ビーバー）」を視聴し、住まいの安全対策について考える。

- ・ ICT端末を通して、実体験や実物の動画を視聴することで、住生活の実体験に迫って理解をすることができる。
- ・ 個人視聴により、生徒の閲覧操作が可能になり、速さや、大きさなど、生徒一人一人に応じて視聴できるとともに、心的配慮が必要な映像についても、生徒は自分のペースで視聴回数や速度調整をしたり、視聴を回避したりすることが可能になる。
- ・ 個別視聴と教師が解説をしながら一斉に伝える全体視聴のどちらかを、目的に応じて用いることができる。



## ICT活用の利点② (第2・8時)

ICT端末の共同編集機能を活用した意見の共有により、協働的な学びが深められる。

